

三つの観点からみる形容詞の性質

津 國 能 江

第一章.

中国語の形容詞は、性質形容詞と状態形容詞の二種類に分けられる。朱徳熙によれば、性質形容詞とは、全ての単音節形容詞と二音節形容詞の一部で、事物の属性を示す。状態形容詞とは、事物のありようを描写する多音節形容詞である。性質形容詞は、程度修飾の形を作ることが比較的自由だが、状態形容詞はそれができない。この分類は、以後の形容詞研究の根幹をなすものである。

さらに呂叔湘は「単音節形容詞用法研究」に於いて、程度副詞との結合が成立するか否かによって形容詞は分類できること、そしてそれには語そのものの性質が大いに関わっていることを示した。

しかし、文化大革命後の研究では「形容詞を性質、状態の二類に分類しきれない」とし、形容詞それだけでなく、他の文脈要素との関係も絡めて考察する方法が数多く現れた。

以前に書いた論文「程度副詞との結合に見る形容詞の分類」では、先に挙げた呂叔湘の論文を軸に、程度副詞との関係に於いて、形容詞について考察したものであった。だが、ここで示した分類は、果たして文革後の新しい形容詞観と対応するものであろうか。

ここに形容詞を、語そのものの性質に捕らわれず、文脈中に於ける役割から考察した研究がある。马真・陆俭明共著の「形容词作结果补语情况考察」では、形容詞が結果補語に使用される場合を想定し、その時の形容詞の性質について考察している。結果補語として使用できる形容詞と出来ない形容詞の差異は果たしてどこにあるのだろうか。また、その区別は過去に行われてきた形容詞研究と重なる部分を持っているのだろうか。

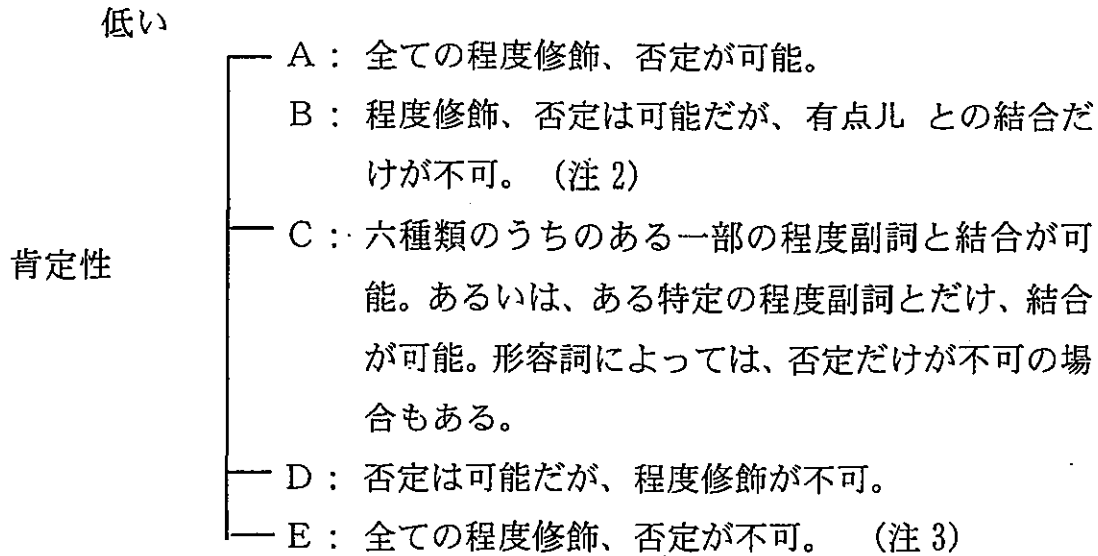
以上のことから行った分類と、結果補語の視点から考察した形容詞観を対比させてみた。結果補語の用法だけでは制限があると考え、形容詞が動詞と結合して補語となる状況も併せて調べた。表の表記は马真・陆俭明の挙げた例と辞書による。実際の使用状況下では、結果はもっと違ったものになるかもしれないが、辞書にある以上このような使用も可能だという目安にはなりうる。信頼性は十分にあるものと信じている。

1・1 程度副詞との結合に於ける形容詞の分類

形容詞の性質、状態形容詞の分類については先に述べた。即ち、性質形容詞は、程度副詞で修飾することが可能である（例えば：不高、很好看、更具体、舒服极了等）。そして、状態形容詞は程度修飾が出来ない（例えば：雪白、乌黑、共同等がそれである）。

しかし、実際の調査では、そんなにきれいにふたつのパターンに分割することは出来ないとわかる。程度副詞の種類は「不、很、更、极了…」と様々であり、否定は出来るが、程度修飾は不可能だったり、逆に程度修飾は出来るのに否定形だけ作れない、といった形容詞が存在する。これは、形容詞それ自体の意味や、程度副詞と結合した結果、生まれる意味が大いに関係していると言えるだろう。

以前書いた「程度副詞との結合に見る形容詞の分類」では、単音節形容詞143個、二音節形容詞282個を「不、有点儿、很、更、极了、多? (注1)」の六種類の程度副詞と掛け合わせ、分類、考察した。その結果、形容詞は性質、状態の二類に大別出来るが、その間にはきちんとした境界線があるわけではなく、図のようにどちらとも言えない灰色の領域を含むことがわかったのである。



高い

ちなみに、肯定性の高い形容詞ほど、程度のレベルが考えられない。低い形容詞は、否定 (= 0 の状態) から非常に高い程度まで、様々なレベルの状況を考えられる。つまり、肯定性の高い形容詞ほど程度修飾が不自由で、低いほど自由になるということだ。

では、具体的な例を見てみたい。A, Bグループの形容詞は以下の通りである。

A

大	小	高	长	细	远	宽	窄	稠	密	硬	软	粘	滑	紧
松	早	快	慢	旧	贵	热	冷	胖	瘦	肥	丑	老	嫩	笨
坏	傻	怪	乱	碎	忙	哑(沙哑)	困	乏	累	疼	痒	慌	甜	
酸	苦(苦味)	苦(苦味)	辣	咸	涩	香	臭	腥	臊	少				
热闹	清静	踊跃	可怕	可怜	可惜	顽皮	外行	难过	烦恼					
快活	苦闷	难受	悲哀	耐心	惭愧	冤枉	粗鲁	冒失	随便					
认真	马虎	和气	拖拉	含糊	稀薄	厉害	稳和	粗糙	严肃					
严厉	勇敢	懦弱	紧张	急躁	大胆	凶恶	惨酷	残忍	客气					
严格	野蛮	顽固	固执	阴险	腐化	小气	自私	勤快	懒惰					

自觉	困难	为难	麻烦	容易	模糊	响亮	软弱	轻松	安静
疲乏	疲癆	辛苦	恐慌	杂乱	年轻	丑陋	聪明	愚蠢	糊涂
滑头	骄傲	相似	绝对	密切	危险	安全	犹豫	简单	复杂
奇怪	希罕	便宜	累赘	优越	自由	落后	稠密	保守	反动
冷淡	消极	悲观	幼稚	死板	粗心	镇静	慌张	狡猾	节约
嘈杂	民主	专制	文雅	粗野	陌生	被动	光滑		

B

粗	厚	深	亮	强	重	壮	美	好	巧	乖	穷	稳	准	闲
直(不弯)														
新鲜	重要	必要	要紧	细致	干净	清洁	卫生	健康	巩固					
结实	周到	平静	熟练	能干	起劲(儿)	踏实	出色	可爱						
高兴	欢喜	愉快	快乐	畅快	痛快	亲热	热心	富裕	谨慎					
规矩	冷静	文明	活泼	爽直	干脆	热情	朴素	大方	坚决					
顽强	主动	激烈	威风	敏捷	公平	公开	明白	明确	清楚					
详细	深刻	仔细	明显	秘密	舒服	美丽	漂亮	好看	伶俐					
精明	灵活	老实	谦虚	虚心	彻底	确实	实际	严密	尖锐					
平安	安稳	可靠	统一	坚固	正常	现成	贵重	方便	顺利					
肥沃	繁荣	平等	幸福	繁荣	先进	乐观	自然	细心	清晰					
果断	诚实	甜蜜	整齐	旺盛	细腻	穷苦	坚强	疼痛	具体					

A, Bグループの違いは有点儿で修飾出来るか否か、ということだが、これはBグループに属する形容詞は、意味の上で積極的な傾向を持つものが多数を占めている、ということが関係している。それ以外にはAとBの間に大きな差異はない。これらは先に挙げた条件に照らせば、性質形容詞であることがわかる。

では程度修飾の出来ないEグループは状態形容詞ということになるだろう。しかし、朱徳熙の分類によれば、単音節形容詞は全て性質形容詞の範疇にある。だが実際に、以下の形容詞が否定も程度修飾も拒むことは調査の結

果わかったことであり、従来の観点とは異なる別の意見もありうる。ここでは調査の結果を優先し、このように分類した。

E

净	哑(哑巴)	羞	方	横(方向)	真	绿			
主要	故意	共同	全部	所有	乌黑	雪白	错误	真正	众多

だが、C、Dグループについてはどうか。一つ一つの形容詞によって、否定が可能であったり不可であったり、または、大いにその程度を肯定することが出来たりと、その程度修飾のレベルはまちまちで、秩序がないように見える。これが、性質、状態形容詞の間にある灰色の領域である。

C

湿	浓	响	静	闷	短	矮	近	轻	淡	稀	脏	晚	凉	饿
渴	痛	难	多	白	黑	熟	饱	平	偏	薄	浅	暗	弱	急
满	空	对	干	圆	扁	正	低	直(坚)	迟	生	新	温	狼	
聋	瘸	晕	歪	斜	弯	尖	秃	红	黄	青	篮	紫		
茂盛	成熟	糟糕	正确	普遍	特别	一般	普通	合适	适当					
妥当	平常	薄弱	肮脏	腐朽	雄壮	勉强	亲爱	恼怒	美满					
倒霉	丰富	自满	麻痺	伟大	卑鄙	可笑	自动	紧急	永久					
经常	基本	宝贵	完全	全部	优越	自由	和平	光荣	进步					
积极	牵强	粗略	可耻	光明	恶劣	明亮	强壮	稀薄	粗糙					
高大	痛苦	强大	广大											

D

瞎	贱	错	假	行	够	完
正式	一样	相同				

Dグループについては、形容詞そのものが特殊だ、との見方もある。例えば、瞎などは、辞書によって動詞と形容詞の区別が曖昧である。また、错には「不对」と「坏、差」の二つの意味があって、どちらで解釈するかによって用法は違ってくる。(注4)

1. 2 「形容词作结果补语情况考察」について

ここに紹介する「形容词作结果补语情况考察」（马真・陆俭明著）では性質、状態という形容词の分類を取り外し「結果補語となれる形容词」という点にのみ注目している。これらが結果補語となる状況を想定し、分類し、考察する。注目すべきは、900個余りもの形容词が挙げられているのに、実際に結果補語として機能するのは200個余り、中でも二音節形容词は60個程しかないということだ。結果補語となれるのは単音節形容词のほうがずっと多いのである。

では、結果補語になれる形容词となれない形容词との間には、いったいどのような差があるのだろうか。

1. 3 結果補語文中での形容词が指向するもの

ここで马真達の定義する、結果補語文中での形容词が指し示すものについての分類を紹介したい。彼らは形容词が結果補語文として用いられる時、以下のパターンのどれかに当てはまるとし、それぞれに分類した。ある形容词は複数のパターンにわたって使用できるが、あるものは一つのパターンにしか当てはまらない。第2章の調査表に提示されている「分類」という項目は、以下の10の分類のことである。注目すべきは、単音節形容词のほうが複数のパターンにまたがる割合が高いということだ。それだけ結果補語を作るヴァリエーションが多いといえる。どの形容词がどのような補語を作るのか一つの参考にはなりうるので、ここにその10のパターンを挙げておきたい。

(1) 補語が指し示すのは、行為動作そのものである。

* 来早了 （補語早は直接、動作来について説明している。）

(2) 補語が指し示すのが、行為動作の主体である。（ここでいう主体は動作の行い手）

* 写累了 （補語累が、動作写の主体について指し示している。）

(3) 指し示すのが、当人の身体器官、あるいは、ある部分である。

* 她哭红了眼睛 （補語红が指し示すのは眼睛についてであり身体の一器官。）

- (4) 補語が指し示すのが、行為動作の対象である。
*把球压扁了 (補語扁は、動作の対象である球についての状態を示している)。
- (5) 補語が指し示すのが、行為の主事である。(主事とは自発的でない行為の主体
のことで、例えば、動詞変、长などは、非自発的な行為である。)
*花儿变红了 (補語红の示すのは花儿についてであり、動詞変は非自発的為。)
- (6) 補語が指し示すのが、行為動作に使用される道具である。
*刀砍钝了 (鈍が示すのは刀で、刀は行為砍の主語と同時に行為の対象。)
- (7) 補語の指し示すものが、行為動作の結果生まれたものである。
*坑挖浅了 (補語浅は、行為動作挖の結果の産物)
- (8) 補語が指し示すのが行為動作の主体、または対象が存在している場所である。
*房间里坐满了人 (房间は人がいる場。補語满是人が存在する場所を説明する。)
- (9) 補語が指し示すものが行為動作の主体、または対象間の距離で、二つの状況がある。
A : 主体、もしくは対象の移り動く距離
*他走远了 (補語远は、走の主体である他の移り動く距離を表す。)
B : 対象間の距離
*秧插密了 (補語密は、動作插の対象秧の間の距離を説明する。)
- (10) 補語が、同源成分についての説明でもある。
*火烧旺了 (火と烧は同源成分で、補語旺の指し示す動詞烧は火を示している。)

第2章

2. 1 調査について

程度副詞との結合状況から見る限り、性質、状態形容詞の境界線ははっきりと定義出来ないことはすでに述べた。それはAからEまでのグループに分かれ、語の性格によって少しずつ段階を追って変化してゆく。また、その他に形容詞には結果補語として成立するか否か、という区別がある。単音節形容詞では圧倒的に成立する場合が多く、二音節形容詞ではその逆、という結果を馬真達は提起している。

では、この二つの情報を重ね合わせ、そこから読みとれる結果において、形容詞について考察することも出来るのではないだろうか。

以上のような理由から調査を試みた。今回はインフォーマントは使用せず、最も一般的な辞書の用法に頼った。使用した形容詞は単音節150個、二音節268個、計418個である。

結果補語として成立する形容詞は多くない。特に、二音節では一気に少なくなるため、別の基準を考えた末、形容詞が補語として成立する場合のことも調査に加えた(注5)。結果補語の項では馬真達の挙げた例を用いている。また、重畳を作れる形容詞についてはその形式を表記した。明らかに褒義と貶義の性格が判るものについても表記したが、どうしても判断のつかなかったものについては、やむをえず?マークを記してある。

2. 2 表の表記について

表の見方は以下の通りである。

*用例が表記されているものは成立する。

* / の表記があるものは、成立しない。

*二音節形容詞の表で、用例の後ろの()内の数字は、1. 3の分類参照のこと。

*●は、成立の可能性が大きいものの、例を探せなかったもの。一般には、結果補語として用いる機会のほうが、多いものと思われる。

*貶は貶義詞、褒は褒義詞のこと。

表中で「」マークのあるものについては、表の最後のページを参照の

こと。

*紙幅の関係上、表は抜粋する。

単音節

	結果補語	分類	動補構造
大	放～	4. 5	办得很～
小	剪～	4. 5. 7	压得～
高	垫～	4. 5. 7	站得真～
低	放～		放得～
矮	墙垒～了	5. 7	砌得～
长	拉～	4. 5. 7	写得很～
短	剪～	4. 5. 7	做得～
粗	那条线画～了	5. 7	织得～
细	切～	4. 5. 7	画得～
远	来～了・飞～了	9	行得～
近	走～	9	离得～
宽	加～	5. 7	改得～
窄	这段路修～了	4. 5. 7	做得～
厚	增～	4. 5. 7	盖得很～
薄	压～	4. 5. 7	穿得～
深	挖～	7	陷得～
浅	摆～	5. 7	想得～
干	锅烧～了	6	●
湿	弄～・把枕头哭～了	4. 8	洗得～
满	把酒斟～・座位坐～了	8	装得～
空	要把气抽～	5	显得～
亮	把煤油灯捻～	4	变得～

	結果補語	分類	動補構造
暗	变~了	5	变得~
强	实力变~了	5	发展得~
弱	近来他的身体变~了	5	病得~
重	约~了	1. 4. 5	打得~
轻	变~了	1. 5	批评得~
浓	眉毛画~了	5	泡得~
淡	冲~	4. 5	调得很~
稠	/		/
密	织~了	9	种得~
稀	站~	4. 5. 7	弄得~了
硬	饭煮~了	5. 7	长得~
软	煮~了	7	和得~
滑表面光	磨~了	4	弄得~
滑摩擦力小	这段路变~了	5	变得~
香	变~了	5	加工得~

二音節

	結果補語 (分類)	動補構造	重疊	備考
茂盛	/	山茶花开得~	/	褒
成熟	庄稼长~了 (5)	他变得~了	/	
糟糕	/	?	/	
正确	这次写~了 (4)	分析得~	/	褒
新鲜	/	这菜炒得~	AABB	积极
重要	/	看得~·说得~	/	
主要	/	/	/	
普通	/	穿得~·干得 A A B B	AABB	
特别	/	那棵树也的确长得~	/	
一般	/	/	/	
普遍	/	活动开展得很~	/	
合适	/	帽子戴得~·剪裁得~	/	
适当	/	色彩搭配得~	/	
妥当	这事儿一定要办~ (4)	收拾得~·处理得 A A B B	AABB	
必要	/	/	/	
要紧	/	这件事变得~了	/	
平常	/	长得~·文章写得 A A B B	AABB	* 1
薄弱	/	人才的流失使力量变~了	/	
细致	/	装得~·人物刻划得~	/	
光滑	得把桌面打磨~ (4)	打磨得~·木头刨得~	AABB	
干净	把操场扫~ (4)	房间收拾得 A A B B	AABB	褒
清洁	/	厨具洗得~	/	褒
肮脏	/	手脸也涂抹得~	A里AB:AABB	贬
卫生	/	食堂搞得~	/	

	結果補語 (分類)	動補構造	重畳	備考
健康	股份制发展～	锻炼得～	/	积极
巩固	/	变得～	?	褒
结实	把行李捆～了 (4, 5)	房子建得～	AABB	褒
腐朽	/	/	/	贬
热闹	/	这台戏唱得～	AABB	褒
清静	/	老两口日子过得～	AABB: ABAB	
平静	/	表面装得～	AABB	
雄壮	/	歌唱得～	/	褒
勉强	/	笑得～・讲得～	/	消极
周到	尽量把问题考虑～ (1)	想得～・安排得～	/	褒
熟练	/	课文背得～	/	
能干	/	结婚后、变得～了	/	褒

第3章

3. 1 形容詞と結果補語

形容詞が結果補語を作るとき、あるものは、かなり自由にそれができる。例えば「破」「干净」などは、

「破」：打～・擦～・拉～・抓～・扯～…

「干净」：洗～・扫～・刷～・抹～・吃～…

のように、様々な動詞と結びつくことが可能である。ところが、ある形容詞についてはそれが非常に制限される。例えば、「横(性格)」「谦虚」「粗心」などは、

*：变～

という形でしか、結果補語を作ることが出来ない。語の前面に選択出来る動詞が「变」しかない。動詞「变」は余り状況を細かく設定せず、ただ事物の状態の変化を表せる便利な言葉と言える。马真達はこれらの形容詞を、結

果補語を作る能力が小さいものと判断した。表中で「変」という動詞が用いられていれば、それ以外に例がなく、やむを得ず用いた結果である。同じことは動補構造の例文に関しても言えるだろう。その形容詞は、補語を作る能力はあっても「変」を用いる以外にヴァリエーションを持たないものと思われる。

また、単音節形容詞の表には「変」を用いた例がほとんど見られないのに対し、二音節形容詞の表では散見できるということも、付け加えておかねばならない。単音節形容詞のほうが二音節形容詞より、ずっと結果補語を作る能力が高いということのよい証明である。

3. 2 三つの条件

表によって、結果補語や動補構造を作る機能を持つ形容詞が明らかになった。程度副詞による修飾についての分類もすでになされている。ならば、これらの基準による形容詞へのアプローチが互いにどの程度まで重なるのか観察することは、意味があると思われる。

基準とは、以下の三つの条件を指す。

- α 形容詞が結果補語として成立する。
- β 形容詞が動補構造構文の補語として成立する。
- γ 形容詞が程度副詞の修飾を受けられる。

α と β の条件にはある特徴がある。 α を満たすものはほぼ確実に β も満たす、ということである。だが、 β を満たすものは必ずしも α を満たさない。先に述べたように、結果補語として機能する形容詞は200余り、対してただの補語となれる形容詞は圧倒的に多い。

γ の条件については、AからEのグループに大まかではあるが振り分けた。つまり、A、Bのグループは γ の条件にあてはまり、D、Eはそうではない。Cについては、判断不能の領域であるが、以下に挙げる分類の結果から、ある程度の判断ができるのではないかと。

3. 3 三つの条件を満たすもの

以下は、 α 、 β 、 γ の条件を、全て満たすものである。

{ α 、 β (●も含む)、 γ Aグループ 単音節}

大	小	高	长	细	远	宽	窄	密	硬	软	滑(摩擦力小)	紧	松	早
快(速度)	慢	旧	贵	热	冷	瘦	香	肥	老(老成)	嫩	坏	笨	傻	
怪	乱	碎	哑(沙哑)	乏	累	疼	酸(酸味)			辣	少			
(胖	丑	忙	苦(苦味)		涩	臭)								

{ α 、 β (●も含む)、 γ Bグループ 単音節}

粗	厚	深	亮	暗	重	美	好	巧	稳	准	直(不弯)	(穷)
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	-------	-----

{ α 、 β 、 γ Aグループ 二音節}

光滑	厉害	年轻	聪明	糊涂	骄傲	简单	复杂	便宜	消极	粗心
狡猾	轻松									

{ α 、 β 、 γ Bグループ 二音節}

整齐	肥沃	安稳	确实	虚心	谦虚	好看	漂亮	仔细	明白	大方
活泼	周到	结实	干净							

一見無秩序に並んだこれら形容詞も、よく見ればある特徴を兼ね備えているようだ。

使用頻度の高い単語とは、往々にして様々な用法のなかに組み入れることが可能な単語のことでもある。形容詞で言えば、副詞との結合に余り制限のないこと、行為動作や、それによって起こる変化の行方について補足的な表現が出来るかどうか、ということだろう。

A、Bのグループが、最も肯定性の低い形容詞であることは先に述べた。これらの形容詞が同時に α 、 β の条件をも満たしているというのは興味深い。これらの形容詞は、語そのものが非常に中性的な性質を持っているために、

文脈を構成する要素との関係によって、意味そのものを大いに左右するからである。形容詞に、ある特定の程度副詞を組み合わせることによって、話し手の心理を反映させることが出来る。つまり、話し手の判断によって、その表す処の状態にレベルをつけることが出来る。

対して結果補語、動補構造構文では、話し手の心理は前面に出てこないが、行為による変化やその結果について、述べる事が出来る。1. 3の分類5では、本人の意図しない行為により起こる変化について述べたが、別に動詞変を使うまでもなく、形容詞の語そのものの中に、変化しうる可能性を内包しているのである。上に上げた形容詞には、分類の4・5に属するものが多い。その形容詞が示すものは、主体（動作主）であったり、その対象であったりするものの、変化しうるものについての陳述が多いように思われる。

3. 4 形容詞と動補構造

単音節形容詞では、結果補語、動補構造の成立、不成立がほぼ一致するのに対し、二音節形容詞では、結果補語として機能するものは圧倒的に少ない。以下は、 β 、 γ の条件はみたすものの、 α だけ当てはまらないものである。

{ β 、 γ Aグループ 二音節}

热闹	清静	踊跃	可怕	可怜	可惜	顽皮	外行	快活	苦闷
耐心	冤枉	难受	粗鲁	冒失	随便	认真	马虎	和气	稳和
严肃	勇敢	懦弱	紧张	大胆	凶恶	惨酷	残忍	客气	严格
顽固	固执	阴险	小气	自私	勤快	懒惰	自觉	困难	为难
麻烦	容易	模糊	响亮	安静	疲乏	疲癆	辛苦	恐慌	丑陋
愚蠢	滑头	相似	绝对	密切	奇怪	希罕	保守	死板	镇静
含糊	慌张	杂乱	犹豫	节约	嘈杂	民主	文雅	粗野	陌生
冷淡	软弱	稠密							

{ β 、 γ Bグループ 二音節}

坚强	穷苦	细腻	旺盛	甜蜜	诚实	清晰	细心	自然	乐观
先进	幸福	平等	繁荣	顺利	贵重	正常	坚固	可靠	平安
尖锐	严密	具体	实际	彻底	老实	灵活	精明	伶俐	美丽
舒服	秘密	明显	深刻	详细	明确	公平	主动	威风	激烈
顽强	坚决	热情	干脆	爽直	文明	冷静	规矩	谨慎	富裕
热心	亲热	痛快	畅快	快乐	愉快	欢喜	高兴	可爱	出色
踏实	起劲儿	能干	熟练	平静	巩固	卫生	清洁	细致	
要紧	重要	新鲜							

人の行為の働きかけによって時間的に成長、変化を起こす範囲にある形容詞は、比較的たやすく補語となれると思われる。そして γ の条件を満たす形容詞は、全て‘更’で修飾が出来た。‘更’には程度のレベルを表す以外に、状態の変化を示せるという機能がある。

* 很干净… 話し手の心情から率直かつ単純に発話されたものと思われる。

* 更干净… 話し手の心の中で、以前の状態よりも更に…という評価の気持ちがある。発話以前に話し手の中に「干净」の基準があり、その基準と比較している。勿論、現実に「干净」の状態に起こった変化を単純に述べることもある。

γ に当てはまる形容詞は、変化の可能性を内包している。ならば、補語となって、そのまま変化を指し示素ことも可能である。興味深いのは、ただ補語となるだけなら大多数の形容詞が当てはまるが、ある語によってはその選択出来る動詞はさほど多くないということである。表中に「变得～(了)」の用例を挙げた形容詞は、補語を作る能力の小さい形容詞といえるだろう。

3. 5 三つのどの条件も満たさないもの

ここで紹介する形容詞は α 、 β 、 γ のどの条件にも当てはまらなかったものである。

{Dグループ 単音節 二音節}

完 行 假 瞎

一样 正式

{Eグループ 単音節 二音節}

横(方向) 方 羞 哑(哑巴)

众多 真正 错误 所有 共同 主要 故意

Dグループは‘不’で否定は出来るものの、程度のレベルをつけることが出来ない。「ある」「ない」という二極化した状態を示せるだけである。そしてEグループは、最初から r の条件にあてはまらない。

そうしてみるとこれら形容詞は、用法としては非常に不自由で意味も一義的である。例えば、「错」はDグループに属していながら α 、 β の条件を満たせる。同様に「多」は α 、 β 、 r の三つにどれも当てはまるが「众多」となると、上に挙げた通りである。

これらの形容詞は、意味の上である特定の状態を示し、それが非常に限定されたものであるが為に、変化の可能性をほとんど持たない。状態の変化を表現しようとするなら、他の言葉に取って代わられてしまう。

その形容詞の表す状態が、変化の可能性を内包しているか否か、ということとは、その語が補語として機能するかどうか、に大いに関わってくるのだろう。

しかし、 r の条件を満たしているのに α 、 β には当てはまらない形容詞もある。このパターンは単音節形容詞には見あたらない。

{ r Aグループ α 、 β は不成立}

难过 烦恼 悲哀 惭愧 严厉 腐化 危险 安全 落后 反动
悲观 幼稚 被动 野蛮(?)

{ r Bグループ α 、 β は不成立}

疼痛 方便 现成 统一 公开 敏捷 必要 朴素(?)

これらの形容詞に、一貫した共通性を見いだすのは難しい。ただ、傾向として以下のことが言える。

* 重畳の形を作れないものが多い。(安全、方便、統一)

* 動詞の働きかけによってその状態になる、という場面を設定しにくい。

「統一」「公開」「必要」は、全て有点儿で修飾が出来ない。前者二つは更とも相性が悪い。ここから考えるに大いに肯定したり否定したり、ということ出来るが、プラスとマイナスの間の微妙な状態を表現することは苦手なのではないだろうか。そうしてみると、意味の上では一義的だといえる。性質としてはDグループに近いのではないかと思われる。

3. 6 灰色の領域

ここで、先に挙げた「灰色の領域」Cグループについて分類を試みたい。注意したいのは、Cグループとひとまとめにしたが、実際にはその程度副詞との結合の成立率は非常にバラエティに富んでいる。あるものはA、Bグループに近く、またあるものはDグループと似た性質を持っているようである。以下は、三つの条件に当てはめたCグループ形容詞の分類の結果である。

{ α 、 β 、 γ Cグループ 単音節}

低	矮	短	近	薄	浅	湿	满	空	暗	弱	轻	浓	淡	稀	脏
晚	迟	生	熟(成熟)	凉	苦(痛苦)	圆	平	正	斜	对	多	白			
黑	篮														

{ α 、 β (●のついたもの)、 γ Cグループ 単音節}

红(色彩)	红(象征成功)	难	秃	横(性格)	弯	歪	偏	扁	急	闷
饱	癩	狼	干	快(锐利)						

●印のついたものには、 α が成立するとはいえ、多少引っかけりを感じている。なぜなら事物の状態を客観的に描写すると思われる形容詞(例えば弯、歪、扁など)は、実際には余り程度副詞の修飾を受けないからである。同じような形容詞横(性格)、方がEグループに属して α 、 β にも当てはまらないこ

とを考えると、動補構造が成立する可能性はあるものの、それは極めて限られた範囲での使用だと思われる。

では、三つの条件が成立しないパターンの形容詞とはどのようなものだろうか。

{ γ Cグループ 単音節}

青 黄 差 尖 新 温 响 静 聾 饿 渴 晕 痛

色を表す形容詞には、二つの種類がある。色そのものを表すだけのものと、その語に文化的なメタファーを持たせるものである。例えば、紅にはただ色彩を表現するだけではなく、吉祥を象徴する側面もある。血の気を失った顔を白で表現するのも（日本語では「真っ青な顔」などというが）、「黒社会」などと黒にマイナスのイメージが絡むのも、文化的に加えられた意味である。そして、そういった側面を持った色彩形容詞には、用法の広がりもあるのではないだろうか。表には用例を挙げたが、動詞「染」「調」な等を使用すれば、補語となる可能性のある色彩形容詞は少なくない。しかし、そういった形で補語になったとしても、形容詞の語そのものが、意味の変化や広がりを感じさせるわけではない。あくまで意味は一つである。だから緑、藍等も上の分類に含めて差し支えないだろう。

{ α , β , γ Cグループ 二音節}

成熟 正确 妥当 完全

α に当てはまる形容詞は、みなA, B, Cグループのどれかに属する。ここからも、程度修飾を受けられる形容詞が、結果補語となれる形容詞と大いに重なっているのがわかる。

{β、γCグループ 二音節}

茂盛	普通	特別	普遍	合适	适当	平常	薄弱	肮脏	雄壮
勉强	美满	丰富	可笑	紧急	优越	自由	光荣	进步	积极
牵强	粗略	可耻	光明	恶劣	明亮	强壮	稀薄	粗糙	高大
痛苦	强大								

結果補語と程度修飾の成立についてはかなり関係性があると判明したが、形容詞が補語となる境界線について、明確な判断を下すことは難しい。例えば、ここに挙げた形容詞は、あるものはA, Bグループに近く、あるものはD, Eグループの性質を帯びている。高大、强大、强壮…などは‘不’と相性の悪い形容詞であるが、他の程度副詞で修飾することは可能である。反対に自由、平常などは否定する場合は多いが、程度修飾されている例を余り見ない。そうしてみると、補語となるにはやはり、前面にどのような動詞を配置するか、ということが大いに関わってくる。ここでも注目すべきは表中に「变得～(了)」の形が目につくことである。やはり補語となれても、その能力は余り大きくないのである。

{γCグループ 二音節}

一般	腐朽	亲爱	恼怒	倒霉	自满	麻痺	伟大	卑鄙	自动
永久	经常	基本	宝贵	全部	和平	广大	(注6)		

程度修飾は一部可能だが、実際にそれほど相性はよくないと思われる。D, Eグループと似ているとあってよいだろう。伟大、宝贵、广大などは、その語自体でかなり意味、程度を限定している。一般、自动、经常については、程度を付ける必要性を感じられない。やはりこれらも、意味が一義的で描写性の高い形容詞だといえるだろう。

このように分類してみると、形容詞が結果補語、動補構造を作れる条件は、程度副詞で修飾出来るかどうかということと、強い関連性を持っている。つまり、γA, Bグループに近い性質を持った形容詞は、その多くが補語とな

る傾向をそなえている。反対に、D、Eグループに近い性質を持った形容詞は、用法が限定される傾向にある。その違いは、個々の形容詞が内包している「意味の広がる可能性」といったものに、大きく関わっているのだろう。

中国語の形容詞について、二つの調査をした。ひとつは程度副詞との結合状況を、そしてもうひとつは、結果補語、動補構造が成立するか否かという調査である。そしてここで述べたように、二つの調査の結果は互いに深く関連していた。

しかし、実際に使用する現場で、このように分類されているかというところ、そうではない。このような傾向がある、としかいいようがない。なぜなら、いつも、言葉の規範というものは、それを使用する人々のあとを追いかけていかなければならないからである。一つの規範をまとめ上げても、時代が下るに連れて言葉は変わってゆく。たとえば、呂叔湘が60年代に程度副詞と形容詞についての調査を行ったとき、使用した形容詞は「普通話三千常用词表」から抜粋したものだったが、90年代の辞書とくらべてみれば、形容詞と動詞、副詞の境界には多少の変化があることがわかる。10年、20年で文法に大変動が起こることなどないが、それでも、優れた辞書が作られていくことによって、作られた規範はどんどんその姿を変えてゆくのである。

そうしてみると、この調査の結果も、一時的なものでしかない。変化してゆく過程を切り取ったに過ぎないのかもしれない。しかし、これからの形容詞研究に対して、少しでも参考になれば、これほど嬉しいことはない。そうして数十年後に、いまの規範がどのようにその姿を変えているのか、興味のあるところである。

注釈

(注1) 多?の形は「多大?」「多长?」等、事物の程度を尋ねる時に用いられる。積極的意味を持つ形容詞と相性がよいということが、前回の調査で確かめられた。

(注2) 「非谓性形容词」と呼ばれるこれら形容詞は、原則として修飾は受けられないとされている。調査の中でもこれらは、否定詞不とも相性が悪い、

という結果がでた。しかし、まるきり否定が出来ないわけではなく、「不」の代わりに「非」を用いれば、否定形を作ることが可能な形容詞もある。ちなみに以下の形容詞は、辞書の中で「非谓性形容詞」との判断を下されたものだ。

主要	故意	永久	经常	全部	消极	乌黑	雪白	真正	共同	自动
正式										

しかし、辞書の記述と、実際に行った調査は、幾らかの矛盾をはらんでいる。程度修飾の可否と、「非谓性形容詞」の性質については、再考する必要があるともいえる。

(注3) 有点儿と結びつきはしないが、一点儿となら結びつく形容詞がある。意味の積極的、消極的差異がそこでも関係しているのかどうか、調べる余地があるように思える。

(注4) Dグループの形容詞には特殊なものが多い。まず、「瞎」は、基本的な意味は「視力をなくす、または、目がみえない」というものだが、口語的に使用すれば「効果のないこと、むだなこと」という意味になる。そして、このように解釈すれば、程度修飾も補語となることも出来ない。更に、「現代汉语辞海」では、これを形容詞として扱っているのに対し、「現代汉语规范字典」では、動詞としている。ここでは形容詞としているが、考慮の余地がある。

次に「错」だが、「不对」の意味で解釈するなら「字写～了」のように補語となれる。だが「坏、差」の意味で解釈する時、否定式にしか用いられない。

「其他的字写得很不～」

「你这么用功，成绩～不了」

この時、動補構造を作ることにも可能である。

「假」は、意味としては「偽、不誠実」となるが、実際には「～笑」「～牙」のように単独で使用されないのが一般である。「不假」という表現が可

能だとしても、実際に使用されるのかどうか、疑問が残る。

「够」には二つの意味合いがある。ひとつは「讨厌」（もう飽きた、という状態）、ひとつは「可以满足需要」というものだ。前者の意味では、補語となることも可能である。だが、後者はそれが出来ない。そして「现代汉语规范用法大词典」では、後者の意味で動詞として扱っている。ということは、「～不～？」という形式は一般的なものの、それは動詞として捉えている、ということになりそうだ。

「完」は、「完结」「完成」の意味なら動詞、「齐全」の意味なら形容詞である。そして、補語にはならない。

「相同」と「一样」は、意味の上ではとても近い。そして「同样」もまた、同じ意味であることを付け加えておきたい。

（注5）動補構造とここでは」記述したが、正しくは「得」を用いた「統語型動補構造」であり、事物の状態、可能性を表す。

（注6）「一般」には「一样」と「普通」の二つの意味がある。「一样」もしくは「同样」の時には α 、 β 成立しない。だが、「普通」の時には、 β が成立する。ここでは前者のほうに解釈した。

参考文献

著書・論文

呂叔湘(1969)「单音形容词用法研究」,『中国语文』第2期

呂叔湘(1984)『现代汉语八百词』,商务印书馆

马真・陆俭明(1997)「形容词作结果补语情况考察」,『汉语学习』1~6期,
(橋本萬太郎記念論文集』(1997)にも収録)

石毓智(1991)「现代汉语的肯定性形容词」,『中国语文』第3期

津國能江(1996)「程度副詞との結合に見る形容詞の分類」『神奈川大学中国語学科論集』第5号, pp. 211-233

朱德熙原著:中川正之・木村英樹編訳(1986)『文法のはなし—朱德熙教授の文法問答一』,光生館

辞典類

- 『现代汉语辞海』(1994) 人民中国出版社
『现代汉语词典 修订本』(1996) 商务印书馆
『现代汉语规范用法大词典』(1997) 学苑出版社
『现代汉语规范字典』(1998) 语文出版社